

(学年) 第 1 学年、(教科・科目) 芸術・美術

個別学習

(単元) 美の秩序

(本時のねらい)

イメージを的確に表現するにあたり、構図や構成は基礎的に重要となる要素である。幾何学図形のように単純な図形を平面的に配置することで、構図が与える心理的な作用を知り、より効果的な表現力を養えるようにする。

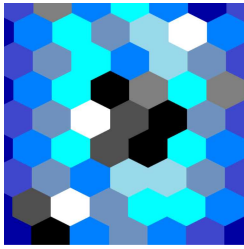
(ICT 活用方法)

個人ごとに、幾何学図形のように単純かつ正確な図形を大小、複数作成して思考しながら配置することは想像以上の制作時間を要する。そこで、市販のデジタル教材を用いることで、配置に必要な図形を短時間で作成できる。初期案の推敲で、図形の大きさや色を容易に変更できるため、作業工程よりもイメージ思考とその確認に意識が向けやすくなり、イメージを具体化させる能力を養えることが期待できる。

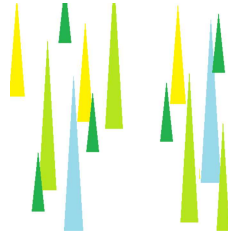
(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	ICT 活用方法
導入 5分	・平面構成における配置の法則を知る。	・写真作品や商品パッケージ等を参考に、多くの人が構成・構図に持つ感覚・感情等のイメージを紹介する。	・プロジェクター等で参考画像を表示する。
展開 30分	・感覚・感情等、イメージからテーマを設定し、幾何学図形を画面内に配置する。	・制作前に市販のデジタル教材の操作を説明する。 ・制作時間にばらつきがある際、時間に余裕がある生徒は色違いを複数作成し、比較検討できるように促す。	・市販のデジタル教材で作成する。
まとめ 5分	・作品データを保存、起動確認する。	・作業終了時間を伝え、速やかにデータ保存を促す。 ・次回の授業内容を伝える。	

(授業の様子)



作品例「蝕」



作品例「上に参ります」

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

アプリの操作方法が分からない、または使用者の予想とは違うアプリの反応等、作成においての疑問やトラブルが多く出ることが予想される。指導者が事前にアプリを使って作品例を作成し、操作に不慣れな者に起きやすいトラブルとその改善・回避方法を事前シミュレートしておくの良いだろう。

制作においては、個別にテーマを設定する際、テーマが決まらずイメージが固まらない生徒がいることも考えられる。その場合、視覚以外の感覚やオノマトペからテーマ設定させると良い。